

「共に変えよう!!」

～一喜一憂を捨てよう～

ローマ12:1～5

今回の聖書箇所はローマ人への手紙 12 章 1 節から 5 節です。この箇所は、私たちがどうあるべきかを教えてくれる聖書の中でも有名なところです。2 節に「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」とあります。「この世と調子を合わせる」ってどういうことですか？私たちの価値観・基準というのは全て人から受けたものです。その世の中の環境です。そしてそれぞれの地域や国によって環境が違うので、人の価値観もそれぞれ違ってきます。そして、それぞれ価値観が違うにもかかわらず、その自分の価値観が“当たり前”と思うようになります。その自分の価値観に当てはまらない人は“イヤな人”として排除してしまいます。このようなことを続けて良い人間関係が築けるでしょうか？だから、私たちは「何が良いこと」なのかを考えなくてははいけません。人は考えることが少なくなっています。阪神淡路大震災から 20 年が経ちました。未だに亡くなった人のことを忘れられずにいる人もいますが、震災のことを忘れてしまっている人も多いと思います。私たちは、忘れてはいけないことを忘れてしまい、忘れるべきこと…人からされたこと・言われたことなどを覚えていることが多いです。自分がしてもらったことも覚えていません。本来は逆です。でもこれが“当たり前”になっているのです。

今回のメッセージタイトルは「共に変えよう!!」副題は「一喜一憂を捨てよう」です。一喜一憂ってどう意味ですか？ちょっと良いことがあればスゴく喜んで、ちょっと悪いことがあるとスゴく落ちこむ…今泣いたカラスがもう笑った…なんてことわざがある通りですよね。これは、子どもならゆるされますが、大人がこれではどうでしょう？

子どもと大人の違いは「目的が分かっている」か、「探し中」かです。大人は目的が分かっているので、その場その場で正しい行動をします。目的を達成するために間違えられないから、正しい行動をとるようになるのです。でも目的がなかったら、自己中心に振る舞い、その時の感情に流され一喜一憂の行動をとるのです。聖書にも箴言 29:18「幻がなければ、民はほしいままにふるまう」とある通りです。目的がないので、自分の行動の意味が分からないからです。

(民数記 14:2～10,17～28) 出エジプト記には、奴隷として扱われていたユダヤ人がモーセに導かれてエジプトを脱出した事が書かれています。ユダヤ人が奴隷から解放される事を願ったので、神さまがそれをかなえられたのです。さらに約束の地に着くまでの間、民が願ったこと(暑い、寒い、水が欲しい、肉が食べたいなど)を神さまはかなえてくださいました。にもかかわらず、このユダヤ人の群衆は「エジプトにいた方が良かった。エジプトに帰ろう」と言い始めたのです。私たちなら、こんな時どうするでしょうか？群衆の意見に調子を合わせますか？また、怒りにまかせて行動しますか？モーセとアロンは違いました。このような民のためにみひれ伏し祈ったのです。そしてヨシュアとカレブもちがいました。10 人の先見隊のうち、この二人だけが状況に左右されずに神さまの約束の地を正しく伝えました。にもかかわらず、ユダヤ人の群衆はこの二人を石打ちにして殺そうとします。しかしヨシュアとカレブは 17～19 節「どうか今、わが主の大きな力を現してください。あなたは次のように約束されました。『主は怒るにおそく、恵み豊かである。咎とそむきを赦すが、罰すべき者は必ず罰して、父の咎を子に報い、三代、四代に及ぼす』と。あなたがこの民をエジプトから今に至るまで赦してくださいましたように、どうかこの民の咎をあなたの大きな恵みによって赦してください。」と祈るのです。だから、神さまは 20～28 節「わたしはあなたのことばどおりに赦さう。しかしながら、わたしが生きており、主の栄光が全地に満ちている以上、エジプトとこの荒野で、わたしの栄光とわたしの行ったしるしを見ながら、このように十度もわたしを試みて、わたしの声に聞き従わなかった者たちは、みな、わたしが彼らの先祖たちに誓った地を見ることのない。わたしを侮った者も、みなそれを見ることのない。ただし、わたしのしもべカレブは、ほかの者と違った心を持っていて、わたしに従い通したので、わたしは彼が行って来た地に彼を導き入れる。彼の子孫はその地を所有するようになる。低地にはアマレク人とカナン人が住んでいるので、あなたがたは、あす、向きを変えて葦の道を通り、荒野へ出発せよ。」「いつまでこの悪い会衆は、わたしにつぶやいているのか。わたしはイスラエル人が、わたしにつぶやいているつぶやきを、もう聞いている。あなたは彼らに言え。これは主の御告げである。わたしは生きています。わたしは必ずあなたがたに、わたしの耳に告げたそのとおりをしよう。」と、答えられます。神さまは、つぶやく者たちを罰したのではなく、耳に告げたとおりにされたのです。それまでに神さまは幾度も立ち返るチャンスを与えられました。しかし不平不満を言い、つぶやき続けた群衆がいました。結果、その群衆は 40 年間荒野をさまよって約束の地には行けませんでした。まだ、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えないで、環境のせ

いにして一喜一憂して、つぶやき続けるのですか？もうこれは止めなければいけません。

一喜一憂を止めるために①小さな決断に力がある事を覚えておきましょう。この小さな決断には“良い決断”“悪い決断”があります。ほとんどの場合が“悪い決断”をしてしまいます。でも心の奥底、どこかに小さな“良い決断”があるのです。今までの生き方をリセットして新しい価値観で生きるとは小さな決断です。「やめた!」と言って諦めてしまうのも小さな決断です。でも、その小さな決断によって人生が大きく変わります。小さな決断に力がある事を覚えておきましょう。

そして、②自分の心に負けるな！環境の故ではない事もしっかり覚えておきましょう。自分の心に負けない…これがすべてです。ロバート・シーラーという牧師がいました。この人にお金がなく教会を建てられませんでした。アメリカには車に乗ったまま映画を観る習慣があったので、車に乗ったまま礼拝するシステムを初めてした牧師先生でした。いろいろな人から「そんな礼拝あるか!」と言われました。しかし彼の行動はクリスチャンだけではなくまだ神さまを知らない人たちの中で New Thought (新しい人生の考え方)として有名になりました。ただの貧しい牧師が自分の良心に従って神さまと一緒に物事を始めることとこれだけの影響を与えるのです。シーラー牧師は著書の中で「成功者と失敗者の違いは何か。失敗者は粘りがなく、簡単に断念してしまう。なぜか？周りのせいではなく、自分自身の心に負けてしまうからです。このことこそが失敗者なんです。失敗とは何か？失敗とはやり方を変えるべきサインなのだ、と彼はいう。落胆したり、絶望することはないので。あきらめずに、やり方を変えて幾度もトライするのです。エジソンが偉大なのは、失敗を繰り返しても、決してあきらめなかったからです。電球を完成させるまでに、何千回もの失敗を繰り返したと伝えられています。マーク・トゥエインも、無名の頃は、何百回も原稿をボツにされても、くじけなかったといっています。どう考え、どう行動して自分の夢を実現するか」と述べています。自分の心に負けないで、小さな決断をするだけなのです。自分の心が負けるような時「こんな弱さよ立ち去れ!」「そんな心よ出て行け!」と言うだけです。簡単でしょ？だから、環境の故ではないことをしっかり覚えておきましょう。

そして、③最後まで(堪え忍ぶ)…です。途中止めはいけません。聖書にも何度も「最後まで堪え忍ぶ者は救われる」と言っています。これは「結果が出るまで…」ではないです。違います。結果は、勝手に出てくるものです。最後まで堪え忍ぶ!です。でも、堪え忍ぶのは一人ではありません。教会の神の家族はみんなで私たちを命がけて支えようといふのです。それが教会なのです。

最後まで…小さな決断を自分の心に負けないです…それだけです。ヘブル人への手紙 12 章 11 節～19 節に書かれています。「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。また、あなたがたの足のためには、まっすぐな道を作らなさい。えな足が調節をはずさないために、いやむしろ、いやらしいためです。すべての人ととの平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。そのためには、あなたがたはよく監督して、だれも神の恵みから落ちる者がないように、また、苦い根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人が汚されたりするものないように、また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がないようにしなさい。あなたがたが知っているとおりに、彼は後になって祝福を相続したいと思つたが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもう余地がありませんでした。あなたがたは、手でさわられる山、燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、ラッパの響き、ことばのとどろきに近づいているのではありません。このとどろきは、これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったものです。」

だから、足と手をまっすぐに伸ばして立ち上がりましょう!聖書の教えは、まず立ち上がることからスタートします。「まっすぐな道を作らなさい」と言われています。これは、今まで生きてきた価値観を捨てて新しい価値観で道を進みなさいと言われているのです。そして「すべての人ととの平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい」とあります。これは自分のための人生ではなく、平和を追い求めて、だれかのためを思って行動しなればいけません。そのために「よく監督して」と言われています。そのために私たちはいるのです。自分の隣にいる人が苦しまないようにしななければいけません。多くの人が汚れるように自分に古い価値観を捨てて一時の感情に流されて行動するのを止めなければいけません。エサウは、空腹という一時の感情で小さな悪い決断(長子の権利を売る)をしてしまつて、自分と自分の子孫の祝福を失いました。自分かもしも子孫に良いものを残したいのなら、良い決断を自分がしなくてははいけません。みんなで、一緒に…共に、人のせいにするのではなく自分で変わっていつて将来に良い実を残しましょう。

(要約者:行司 佳世)